

令和5年度 北海道芦別高等学校 学校評価報告書

1 本年度の重点目標

1	主体的、対話的で深い学びを通して、知識・技能および社会で生きる力を育む
2	様々な体験から進路目標を決定し、その実現に向けて積極的に取り組む態度を育む
3	社会人としての規範意識、公共の精神を身に付けさせるとともに、生命に対する畏敬の念や望ましい勤労観、職業観を育む
4	感染症予防をはじめ、心身の健康の保持増進に努めるとともに、自他の健康安全に貢献できる態度を育む
5	地域の伝統や文化にふれあい、地域の人達とふれあうなかで、地域を理解・尊重する態度を育む

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程 学習指導	生徒の個々に応じた学習指導に努めた。 基礎や基本の定着に向けて指導方法や評価方法を検討し、ICT等を活用した授業改善を進めていく必要がある。	生徒一人ひとりに目を向け、役割と出番を設け、おのおのがその責任を果たす中で、「成功体験」を積み重ねていけるように、引き続き、生徒に寄り添った教育活動を進めてほしい。
改善方策	①目指す生徒像に基づき、各教育活動の目的の明確化を図り、よりよい教育課程の編成を進め、適切な観点別評価を実践し、学習評価の充実を図る。 ②ICTを活用し、生徒が互いに学び合う学習集団を形成する指導内容や指導方法の改善を図る。 ③多様な生徒の実態に応じた授業研修の充実を図る（国語、数学、英語は学び直しの指導の在り方）。	
生徒指導 特別活動	規範意識の醸成や基本的生活習慣の定着に向けた指導の工夫が必要となっている。 HR活動、授業、教育相談等で、命の大切さ、多様性の尊重、他者を思いやる心等生徒の心に訴えかける取組が必要である。	規範意識の醸成や基本的生活習慣の定着に向けて、今後も継続して指導してほしい。 思いやりの気持ちを醸成させる取り組みをお願いしたい。 来年度は、保護者や地域の方に教育活動を見せる機会をつくり、芦別高校の教育活動の内容が伝わるよう進めてほしい。
改善方策	①生徒の自己肯定感を高め、リフレクション等で生徒自身が気付くことによって生じる向上心を育むコーチング・スキルを磨き、生徒の特性に応じた適切な支援を図る。 ②命の大切さや多様性を尊重する態度の育成を図り、困っている生徒への支援を行いながら、いじめやトラブルを見逃さない「いじめ見逃しゼロ」を組織的に実践していく。 ③生徒に身に付けさせたい資質・能力（ループリック評価表）を様々な場面において、生徒にも提示し、評価規準に基づいたリフレクション（振り返り）を行い、生徒の達成感や自己有用感の向上を図る。	
進路指導 キャリア教育	生徒一人一人の進路目標に応じた計画的で継続的な指導に努めた。 生徒の進路実現に向け、校内における進路指導の充実を図り、地域の企業や関係機関等との連携を密にし、キャリア教育を進めることが必要である。	インターンシップ及び外部講師等による進路講話や模擬面接等を通じて、進路目標につながる取組を推進してほしい。 芦別高校の大学等の推薦枠等将来の選択肢が増える情報は積極的に中学生や保護者に提供してほしい。
改善方策	①生徒に対し学年問わず、常に自己理解を深める働きかけを行い、進路目標の設定・見直しの支援を図る。 ②体験的な学習や総合的な探究の時間を通じて勤労観や職業観の育成を図る。 ③地域の教育力を積極的に活用するとともに、地域の企業や関係機関、職業安定所との緊密な連携を図る。また、企業ニーズや卒業後の就業状況の把握などの調査を継続し、早期離職対策の方策を検討する。	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
組織運営	分掌部長、ミドルリーダーを中心に、組織的に業務を推進できた。 行事ごとに身に付けさせたい資質・能力をループブック評価表に基づいて実施し、実施後に振り返りを行うことで、改善のポイントが明確になる。 業務の偏りが見えるので、業務量のダウンサイジングを図り、効率化が必要である。	・3年間の学生生活を経験して「芦高に入学して良かった。夢を叶えることができた」と卒業生が語ることができるよう、今まで以上に生徒の自己肯定感を高め、忍耐と愛情をもって生徒達に接することをお願いしたい。
改善方策	①教職員一人一人が主体的にとらえ協働し、組織力の向上を図る。 ①目的の明確化・方針の共有化を進め、業務の見直しや効率化を図る。また、時間外勤務の縮減に努め、教職員の心身の健康保持増進を図る。 ②外部の声を積極的に取り入れて、魅力ある学校づくりを一層推進する。 ③各種マニュアルやいじめ防止基本方針を継続的に検証し、学校全体の危機管理体制の一層の充実を図る。 ④半期ごとの評価会議を実施し、学校課題と解決の方策を共有する。	
保護者、地域住民との連携	地域行事やイベント、ボランティア活動を案内や声かけにより、意欲的に取り組む生徒が増えている。 警察署と連携し、交通安全教室、薬物乱用防止教室、防犯教室、1日警察官体験等の活動を通し、規範意識を向上させることができた。 地域創生に関わる探究活動を通し、地域の方と触れ合う機会を作ることで、地域の良さや課題等に気付くことができた。また、地域の方が就職希望者に対して模擬面接を行うことで、進路決定に係る採用試験等に対して意欲の向上を図る良い機会となった。	「高校生カフェ」の取組は、地域住民の方々に好評であり、高校生の頑張っている姿が今後の芦別高校への希望者へ繋がっていく可能性があるので、「高校生カフェ」のような活動を次年度以降も継続していくをお願いしたい。また、小学生への学習ボランティア等、連携も広がりつつあるので、今後の取組に期待したい。 ホームページについて、日誌が行事ごとによく更新されているが、それ以外の部分が更新されていないようなので、SNS等を活用し、生徒自身が楽しみながらより活発な情報発信をするなどの取組を検討し、より一層広報活動をし、魅力ある芦高づくりを今後もお願いしたい。
改善方策	①PDCA マネジメントに基づいた学校改善を進めるとともに、学校評価の内容について職員や保護者・地域に情報発信を行う。 ②学校運営協議会を通し、学校と地域が課題を認識し、共通の目標をもち、地域と密接に結びついた取り組みを推進していく。 ③地域の小中学校や関係機関等との連携を緊密にし、本校の取組の情報発信の質と量の充実を図る。 ④地域の教育資源を積極的に活用し、学校の教育力の向上を図る。	
公表方法	・PTA総会などで保護者に公表 ・学校ウェブページでの公表 ・学校運営協議会で公表	

- 3 添付資料
- (1) 令和5年度学校評議員学校評価アンケート【学校関係者評価書】
 - (2) 令和5年度学校評価（自己評価）集計【令和5年度自己評価書】
 - (3) 令和5年度保護者アンケート集計結果【保護者による学校評価書】